

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果と分析について

1 目的

- (1) 2024年4月18日(木)に実施した「令和6年度 全国学力・学習状況調査」における町田市の調査結果を分析し、教育施策の成果と課題を検証して改善を図る。
- (2) 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善を図る。
- (3) 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 主な内容

- (1) 令和6年度 全国学力・学習状況調査
 - ① 調査結果(教科別平均正答率、結果の分析と授業改善のポイント)
 - ② 質問紙調査結果(児童生徒質問紙及び学校質問紙の結果の分析と今後の取組について)
 - ③ 質問紙調査と教科別平均正答率とのクロス集計結果
- (2) 調査結果分析に基づく町田市教育委員会の取組

3 活用方法

- (1) 各学校において、本資料を参考に調査結果を分析し、授業改善推進プラン(中間改善計画)を作成するとともに、全教員が実施する町田市スタンダード授業改善シートを活用した授業分析を行い、日々の授業改善を図る。
- (2) 教育委員会において、本調査結果と、市独自のICT活用状況調査や授業をデザインする8つの取組の実施状況等を関連付けて分析し、今後の研修内容や学力向上推進施策の取組の改善及び充実を図る。
- (3) 学習習慣の確立及び家庭学習の推進を図るために、保護者・地域に周知する。
- (4) 組織的な授業改善のPDCAサイクル化を図るために、定例校長会や定例副校長会、教務主任会や研究主任会、若手教員育成研修やICT活用研修等で周知する。
- (5) 町田市ホームページ「まちだ子育てサイト」において、結果と分析について公開し、町田市教育委員会の取組の周知を図る。

4 配布及び公開

- (1) 各学校で分析した結果を、学校だより等で保護者に周知する。
- (2) 町田市教育委員会で分析した結果を、町田市立小・中学校の管理職及び教員に配布する。
- (3) 町田市教育委員会で分析した結果を、町田市ホームページ「まちだ子育てサイト」において公開する。

「令和6年度全国学力・学習状況調査」の結果と分析について

令和6年度 全国学力・学習状況調査

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善・充実等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 対 象 小学校6年生、中学校3年生

3 実施日 2024年4月18日（木）

4 調査内容

- 教科に関する調査（国語、算数・数学）
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ◆児童生徒に対する調査
 - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
 - ◆学校に対する調査
 - ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 学力調査結果

（１）教科別平均正答率（全国より上回っているもの、下回っているもの）

【小学校】

		国語	算数
平均 正答率	町田市	66	63
	全 国	67.7	63.4
	東京都	70	68
割合 ※	町田市	97	99
	東京都	103	107

○国語は、全国より1.7ポイント、東京都より4ポイント下回っている。
○算数は、全国より0.4ポイント、東京都より5ポイント下回っている。

※ 全国を100とした時の割合

経年変化		国語			算数		
		R4	R5	R6	R4	R5	R6
割合 ※	町田市	99	96	97	99	99	99
	東京都	105	102	103	106	107	107

【中学校】

		国語	数学
平均 正答率	町田市	60.0	55.0
	全 国	58.1	52.5
	東京都	61.0	57.0
割合 ※	町田市	103	104
	東京都	104	108

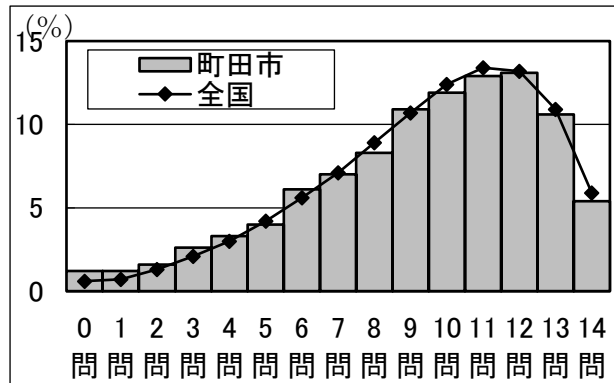
○国語は、全国より2ポイント程度上回っているが、東京都より1ポイント下回っている。
○数学は、全国より2.5ポイント上回っているが、東京都より2ポイント下回っている。

経年変化		国語			数学		
		R4	R5	R6	R4	R5	R6
割合 ※	町田市	100	100	103	101	101	104
	東京都	101	103	104	105	105	108

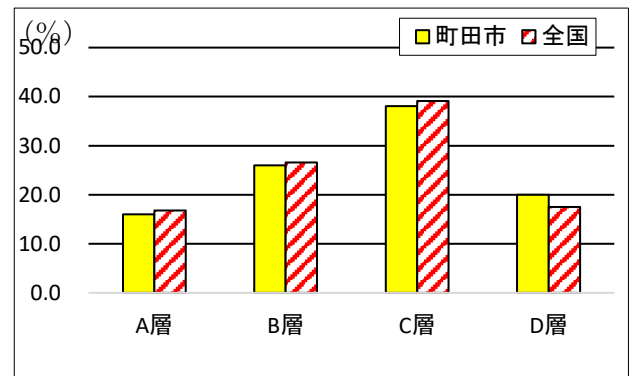
(2) 小学校

①国語

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数, 縦軸：割合)



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの (3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示)

評価の観点・学習指導要領の内容、領域等		問題数	平均正答率 (%)		
			町田市	全国	東京都
		14	66	67.7	70
知識・技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	4	63.3	64.4	67.9
	情報の扱い方に関する事項	1	86.0	86.9	88.8
	我が国の言語文化に関する事項	1	67.4	74.6	75.3
思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	3	61.1	59.8	63.9
	書くこと	2	67.5	68.4	69.9
	読むこと	3	67.1	70.7	71.9

【問題ごとの平均正答率】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1ー	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	62.4	62.5	66.6
1二(1)	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる	77.8	75.9	80.3
1二(2)	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	54.0	52.9	56.3
1三	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	66.9	63.8	68.9
2一(1)	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	82.0	80.3	83.4
2一(2)	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	86.0	86.9	88.8
2二	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	53.0	56.6	56.4
2三(1)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	42.6	43.4	48.9
2三(2)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	73.9	76.0	77.3
3一	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	58.8	62.3	65.2
3二(1)	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる	66.1	66.9	71.1
3二(2)	人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる	70.5	72.5	73.6
3三	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる	64.6	72.6	71.0
3四	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる	67.4	74.6	75.3

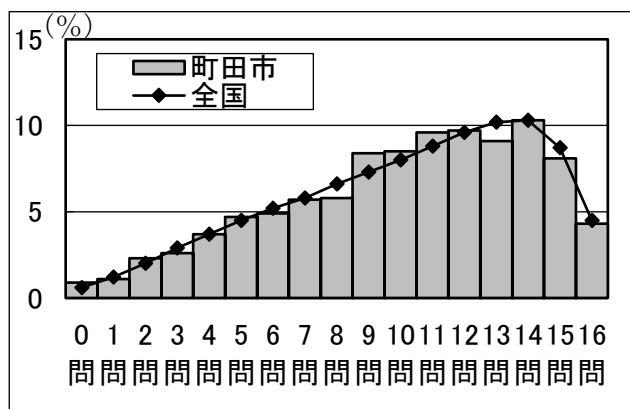
【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

- 四分位の正答数内訳では、D層の割合が全国よりも高い。
- 観点別の平均正答率では、「言語文化に関する事項」が**全国より7ポイント程度低い**。
- 「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」の項目は、**全国より3ポイント程度高い**。
- 「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」項目、「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる」項目は、**全国より3ポイント程度低い**。
- 「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる」項目、「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる」項目は**全国より8ポイント程度低い**。
- 問題別（解答類型）調査結果によると**全国より全体的に無回答率が高い**。問題番号3三、3四においては、**無回答率が全国よりそれぞれ7ポイント、10ポイント高い**。

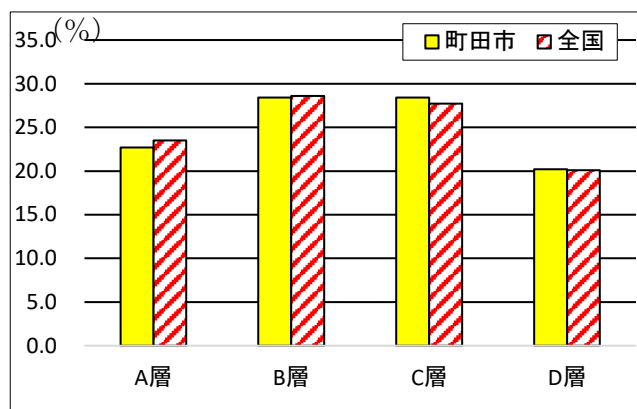
- 伝えたいことを明確にするためには、集めた材料を書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりすることが大切である。
- 文章の内容を理解したり表現したりする場合には、文の中での語句の役割や語句相互の 関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているかを理解させることが重要である。
- 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりするためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断させたり、想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な 表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにする場面を設定したりすることが大切である。
- 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付かせるためには、本などの中の言葉から自分を支える言葉を見付けさせたり、今までになかった考えを発見させたりすることなどによって、読書の意義をより強く実感できるようにすることが大切である。

②算数

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数、縦軸：割合）



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの（3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示）

評価の観点	問題数	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
	16	63	63.8	68
知識・技能	9	71.8	72.8	76.7
思考・判断・表現	7	51.4	51.4	57.1

【問題ごとの平均正答率】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1 (1)	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる	59.4	62.1	66.9
1 (2)	数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる	89.2	88.5	91.9
2 (1)	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	55.2	56.9	61.3
2 (2)	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	68.1	69.1	73.5
3 (1)	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	86.2	85.5	88.0
3 (2)	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	73.7	71.3	75.9
3 (3)	球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	35.7	36.5	45.3
3 (4)	角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	70.4	72.0	73.9
4 (1)	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	67.4	70.1	74.3
4 (2)	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる	74.1	70.0	78.3
4 (3)	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	30.6	31.0	37.2
4 (4)	速さの意味について理解しているかどうかをみる	51.7	54.1	62.2
5 (1)	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる	79.3	80.8	82.4
5 (2)	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる	71.6	73.3	74.9
5 (3)	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	43.0	44.0	48.0
5 (4)	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	50.7	49.3	55.5

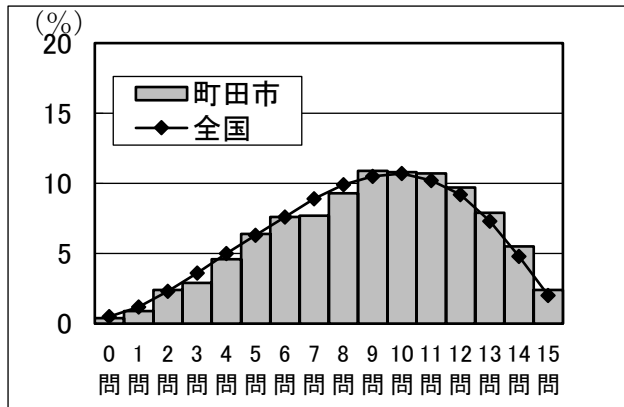
【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

- 四分位の正答数内訳では、全国と比較し A 層及び B 層の割合が全国より低く、C 層及び D 層の割合が全国より高い。
 - 観点別の平均正答率では、「知識・技能」は全国より 1 ポイント程度低い。一方、「思考・表現・判断」は全国とほぼ同じである。
 - 問題別（解答類型）調査結果によると全国より全体的に 0.5 ポイントから 3 ポイント程度、どの問題においても無回答率が高い。
 - 「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる」場面では全国より 4 ポイント以上高い。
 - 「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる」「除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる」「速さの意味について理解しているかどうかをみる」の項目では、全国より 2.5 ポイント程度低い。
-
- 1（1）のような数量の関係をつかみにくい問題の解決において、問題の文脈に沿って図などに表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるようにすることが大切である。
 - 4（1）除数が小数である場合の除法の計算をすることができるように、例えば被除数、除数を共に等倍して計算する等の工夫について指導していく。
 - 日常の具体的な場面に対応させながら、速さなど単位量当たりの大きさについて理解できるようにすることが大切である。

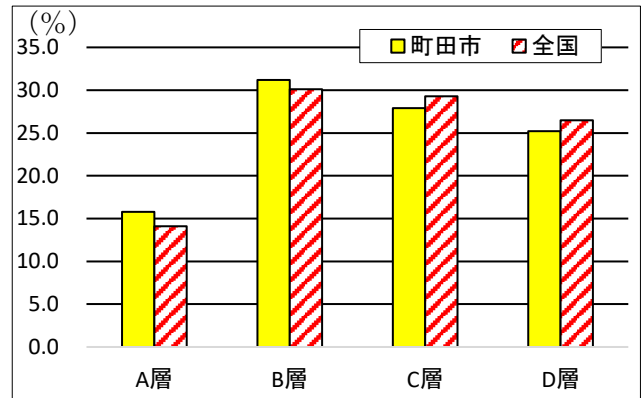
(3) 中学校

①国語

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数, 縦軸：割合)



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの (3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示)

評価の観点・学習指導要領の内容、領域等		問題数	平均正答率 (%)		
			町田市	全国	東京都
		15	60.0	58.1	61.0
知識・技能	言語の特徴や使い方に関する事項	3	60.2	59.2	61.6
	情報の扱い方に関する事項	2	61.5	59.6	62.9
	我が国の言語文化に関する事項	1	74.6	75.6	75.7
思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	3	62.0	58.8	62.9
	書くこと	2	66.4	65.3	67.9
	読むこと	4	49.2	47.9	50.8

【問題ごとの平均正答率】

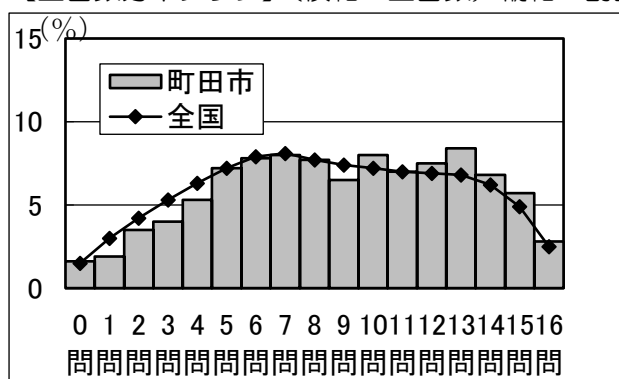
問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1一	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる	65.4	63.2	66.3
1二	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる	72.2	68.5	73.9
1三	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	45.0	44.0	47.4
1四	話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	48.4	44.7	48.4
2一	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる	37.9	36.3	39.1
2二	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	78.0	75.2	78.4
2三	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる	65.1	64.5	67.1
2四	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる	45.9	42.6	48.2
3一	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	84.0	81.4	83.7
3二	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる	56.0	53.8	58.0
3三	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	69.7	68.8	71.2
3四	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる	48.8	49.3	52.1
4一	表現の技法について理解しているかどうかをみる	55.0	54.9	55.6
4二	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる	47.7	48.3	48.8
4三	行書の特徴を理解しているかどうかをみる	74.6	75.6	75.7

【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

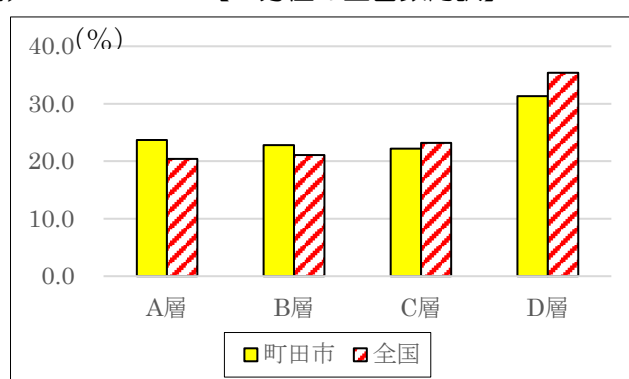
- 四分位の正答数内訳では、A層及びB層の割合が**全国よりも高い**。
 - 観点別の平均正答率では、「知識・技能」の「我が国の言語文化に関する事項」は**全国より1ポイント程度低い**。一方、「思考・判断・表現」の「話すこと・聞く事」は**全国より3ポイント程度高い**。
 - 問題別では、「資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる」や「話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」、「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる」の項目は、**全国より3ポイント程度高い**。
 - 「文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる」の項目が、**正答率が40%を下回る**。
-
- 言語活動の中で言葉の特徴などに気付かせることや、学習したことを話したり聞いたり書いたり読んだりする場面に生かせるようにすることを意識しながら指導することが重要である。
 - 短歌や俳句などを読み味わう際には、描写などに着目させ、心情や情景を想像しながら読ませることが大切であり、そのことによって深い理解や感動が得られるようにする。その際、細部の描写にも着目しながら、物事の様子や場面などを丁寧に捉えることができるように指導することが重要である。
 - 図表や写真などを含む説明的な文章を読む際には、示されている図表などが、文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、図表などを示すことで文章にどのような効果が生まれているのかを考えるよう指導する。

②数学

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数、縦軸：割合）



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの（3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示）

評価の観点	問題数	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
	15	55	52.5	57.0
知識・技能	11	66.1	63.1	67.3
思考・判断・表現	5	31.3	29.3	34.2

【問題ごとの平均正答率】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	41.5	34.8	43.4
2	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	56.7	52.5	57.8
3	回転移動について理解しているかどうかをみる	70.7	68.3	72.8
4	一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる	65.0	65.3	68.3
5	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる	77.1	73.1	77.1
6	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	91.7	90.2	92.1
6 (1)	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	37.5	35.9	41.7
6 (2)	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	44.5	41.8	46.2
7	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる	77.1	74.3	78.3
7 (1)				
7 (2)	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	25.4	25.9	28.8
7 (3)	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる	48.5	48.5	52.2
8	二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる	86.6	83.4	85.7
8 (1)				
8 (2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	17.5	17.1	20.5
8 (3)	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる	79.1	76.9	79.4
9	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	31.6	25.8	33.9
9 (1)				
9 (2)	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる	33.5	26.7	32.9

【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

- 四分位の正答数内訳では、A 層及び B 層の割合が全国よりも高い。
 - 観点別の平均正答率では、すべての観点において、平均正答率が全国よりも高いが、特に「知識・技能」においては**全国よりも3ポイント程度高い**。
 - 問題別では、「等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる」「簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる」「二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる」の項目は、**全国より3ポイント以上高い**。
 - 「連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる」「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる」「事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる」の項目は、**全国より5ポイント以上高い**。
 - 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」や「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」の項目が、**正答率が30%を下回る**。
-
- データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるように指導することが大切である。
 - 様々な問題を数学を用いて解決できるようにするために、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。その際、数学を活用する方法を説明できるように指導すること。

6 質問調査結果

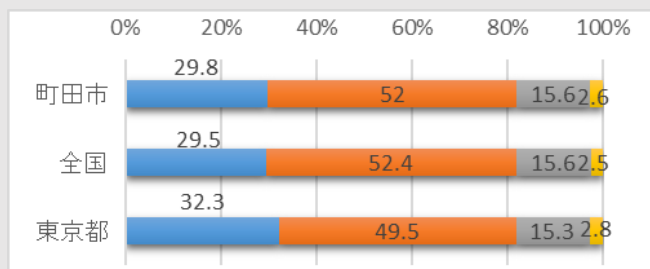
(1) 児童生徒質問調査 【「学び続ける力」に関する項目】

①自分の考えをもち、行動できる。(挑戦・自己理解)

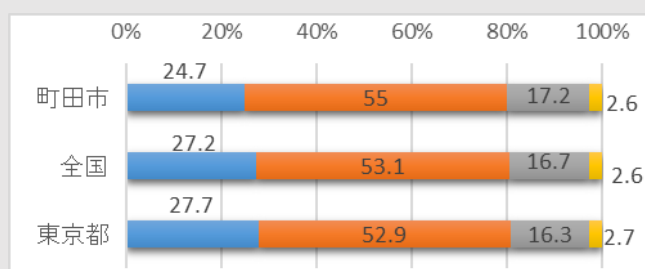
1. 小学校5年生、中学校1,2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

※左から児童・生徒の回答内容「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の順に並んでいる。

【小学校】

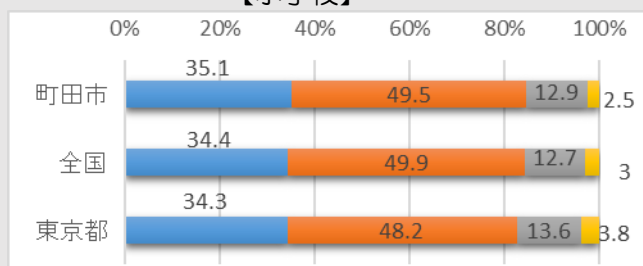


【中学校】

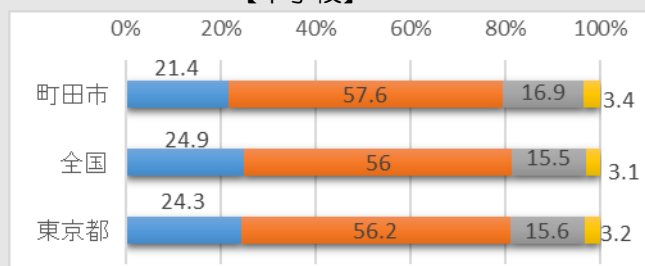


2. 小学校5年生、中学校1,2年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

【小学校】



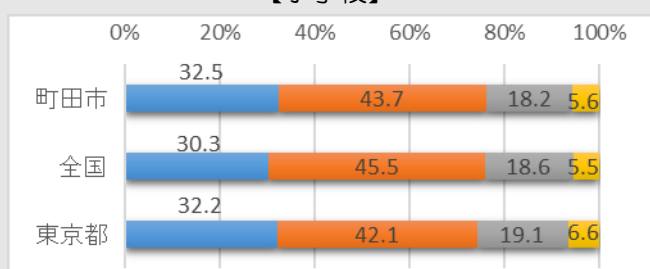
【中学校】



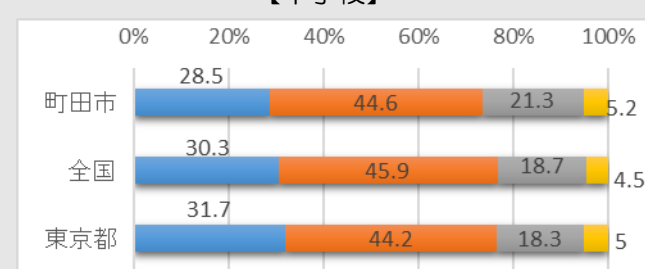
②他者とのかかわりの中で、学びを得ることができる。(他者受容・協調性)

3. 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

【小学校】



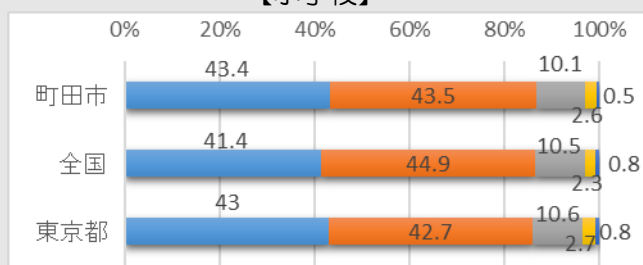
【中学校】



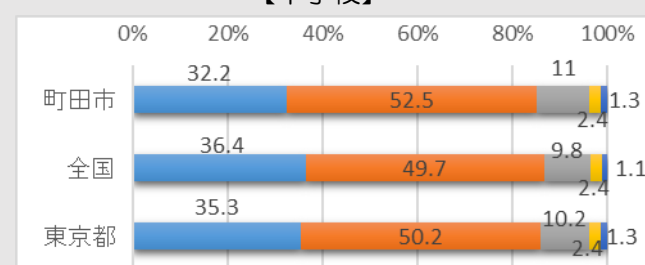
4. 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

※左から児童・生徒の回答内容「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」「学級の友達との間で話し合う活動を行っていない」の順に並んでいる

【小学校】



【中学校】

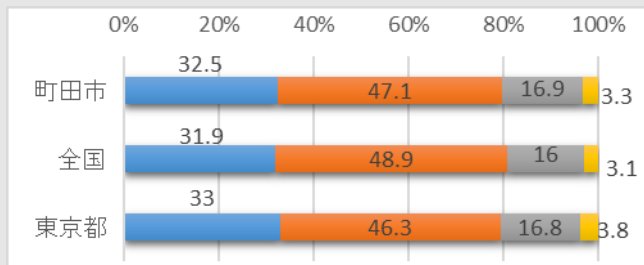


③学習内容や学習過程を振り返り、前向きに次の学習に取り組むことができる。(ポジティブ・粘り強さ)

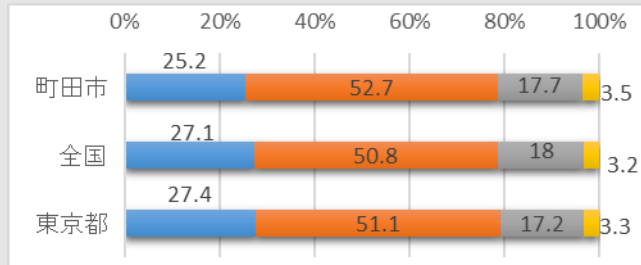
5. 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

※左から児童・生徒の回答内容「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の順に並んでいる。

【小学校】

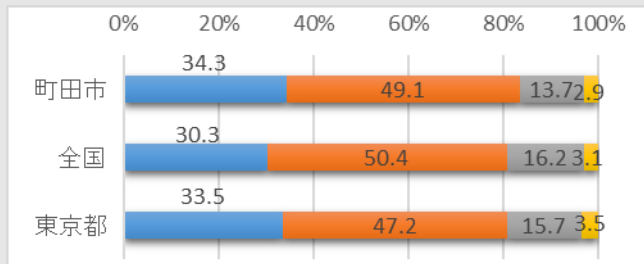


【中学校】

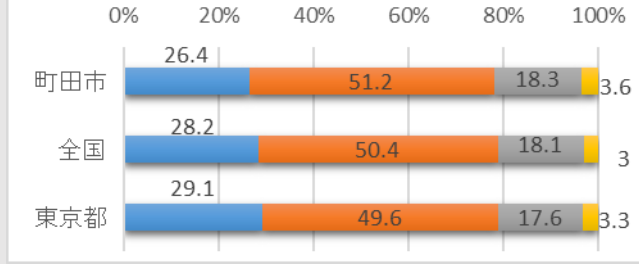


6. 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

【小学校】



【中学校】



【分析 (○) と今後について (●)】

○①及び③については、どの項目も肯定的回答の割合は、**全国や都と同程度**である。

○「②他者とのかかわりの中で、学びを得ることができる。(他者受容・協調性)」の、「3 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか」の項目においては、**中学校の肯定的回答の割合は全国より3ポイント程度低い**。

●「3. 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか」の項目は、クロス集計において学力との相関関係があることがわかっている。授業では協働的な学びを取り入れるとともに、学びの深まりや広がりを見ることが重要である。

●学校質問紙調査の結果(教員の意識)では、「学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したか」の項目で、中学校は肯定的回答が100%であるが、生徒の意識調査では「3. 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか」の項目の肯定的回答は73%程度である。活動の方法や内容を改善し、質を高めていくことが必要である。

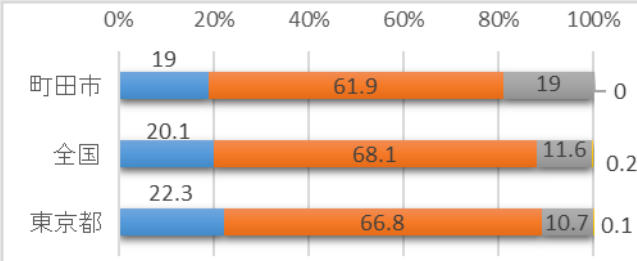
(2) 学校質問調査 【「学び続ける力」に関する項目】

※左から学校の回答内容「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」の順に並んでいる。

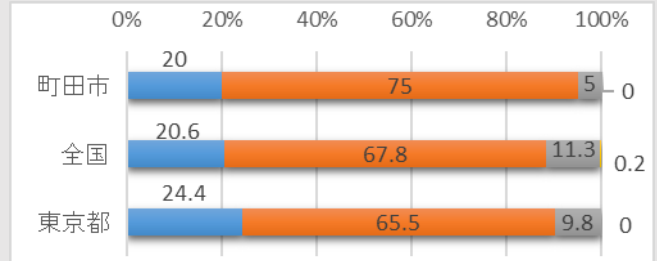
①自分の考えをもち、行動できる。(挑戦・自己理解)

1. 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

【小学校】

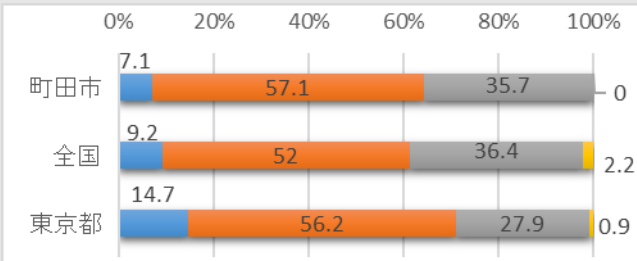


【中学校】

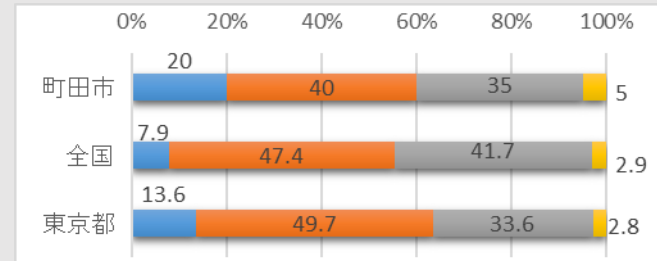


2. 調査対象学年の児童生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか

【小学校】



【中学校】

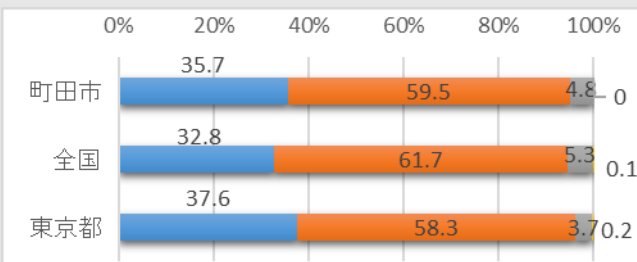


②他者とのかかわりの中で、学びを得ることができる。(他者受容・協調性)

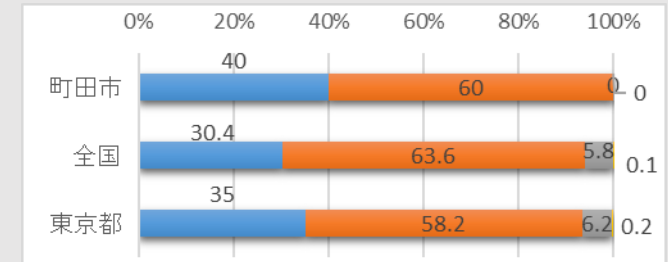
3. 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか。

※左から学校の回答内容「よく行った」「どちらかといえば、行った」「あまり行わなかった」「全く行わなかった」の順に並んでいる。

【小学校】

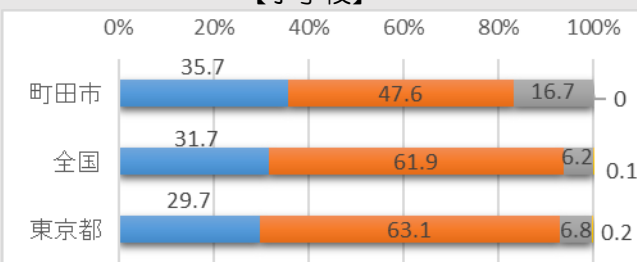


【中学校】

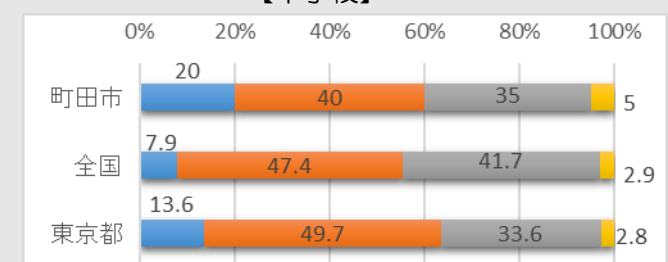


4. 調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

【小学校】



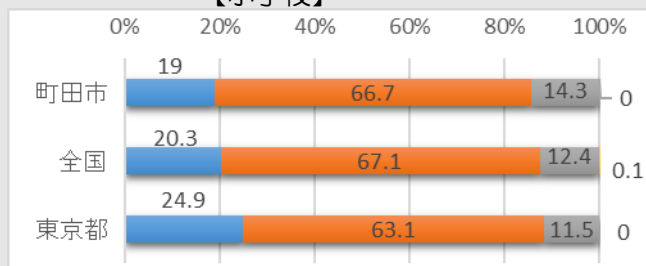
【中学校】



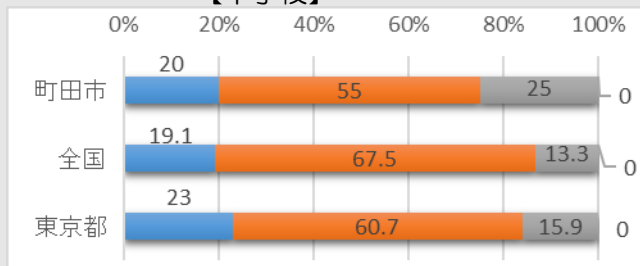
③学習内容や学習過程を振り返り、前向きに次の学習に取り組むことができる。(ポジティブ・粘り強さ)

5. 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

【小学校】

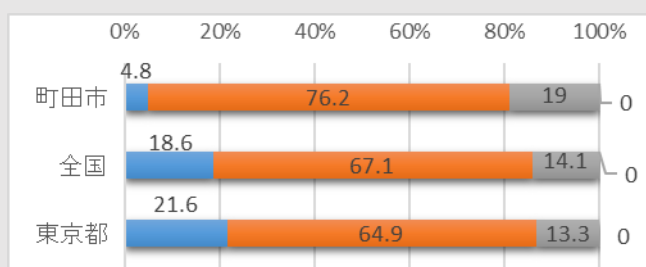


【中学校】

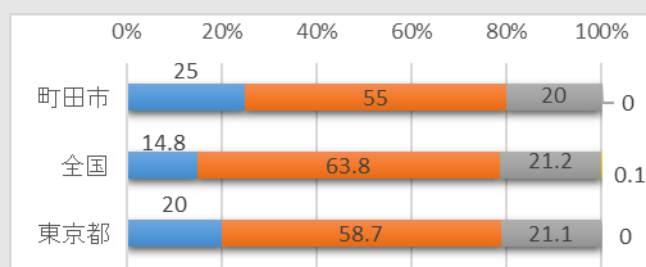


6. 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか

【小学校】



【中学校】



【分析 (○) と今後について (●)】

①自分の考えをもち、行動できる。(挑戦・自己理解)

○「1. 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができるか」の項目については、肯定的な回答の割合が小学校は全国より7ポイント程度低いが、中学校は全国より6ポイント程度高い。

○「2. 自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っているか」の項目については、肯定的な回答の割合が小・中学校ともに全国より3～4ポイント程度高い。

②他者とのかかわりの中で、学びを得ることができる。(他者受容・協調性)

○「3. よさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したか。」の項目については、肯定的回答が、小学校は全国と同程度だが、中学校は全国より6ポイント程度高い。

○「4. 友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるか」の項目については、肯定的回答が、小学校は全国より10ポイント程度低いが、中学校は全国より4ポイント程度高い。

③学習内容や学習過程を振り返り、前向きに次の学習に取り組むことができる。

(ポジティブ・粘り強さ)

○「5. 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしているか」の項目については、肯定的回答が、小学校は全国より2ポイント程度、中学校は全国より11ポイント程度高い。

○「6. 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたか」の項目については、肯定的回答が、小学校は全国より5ポイント程度低いが、中学校は全国と同程度である。

●「2. 自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っているか」の項目については、児童生徒の学び続ける力に大きく関わる項目である。現在は肯定的回答が60%程度であるが、80%程度まで高められるよう、授業改善を推進していくことが必要である。

7 質問と学力のクロス分析結果

(国立教育政策研究所「令和6年度 全国学力・学習状況調査 報告書」から)

【クロス分析について】

- ・児童生徒質問及び学校質問については、学力との間に一定の関係が見られる項目を抜粋し、教科の平均正答率とのクロス集計とその分析結果を掲載している。

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果(概要)のポイント
文部科学省・国立教育政策研究所
質問調査結果(児童生徒、学校)

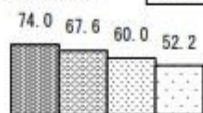
- ◆ 「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率や挑戦心・自己有用感・幸福感等が高く、自分で学び方を考え工夫している。

児童生徒質問「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」の選択肢ごとの教科の正答率

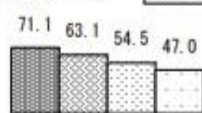
課題の解決に向けて自分から取り組んだ

☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

小学校国語 0.236



小学校算数 0.247



児童生徒質問「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」と児童生徒質問「自分にはよいところがあると思う」のクロス集計

小学校

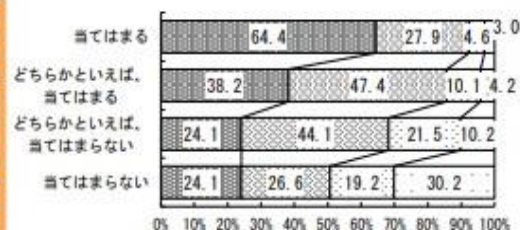
0.313



自分には、よいところがあると思う

☒ 当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない
☐ 当てはまらない

課題の解決に向けて自分から取り組んだ



- ◆ 課題解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、考えをまとめ、発表・表現する場面でICTを活用している。その両方に取り組んだ学校グループの児童生徒は、それ以外のグループよりも各教科の正答率が高い。

発表場面でのICT活用頻度別に見た学校質問「課題解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動」の選択肢ごとの教科の正答率

課題解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動

① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる
 ③ どちらかといえば、当てはまらない (又は) 当てはまらない

中学校数学



発表場面でのICT活用頻度が週3回以上で、課題解決の学習活動の質問に「当てはまる」と回答した学校の生徒の平均正答率は54.7%。

発表場面でのICT活用頻度が週3回未満で、課題解決の学習活動の質問に「どちらかといえば、当てはまらない」又は「当てはまらない」と回答した学校の生徒の平均正答率は48.9%。

- ◆ ICT機器活用の効力感が高い児童生徒ほど、挑戦心・自己有用感・幸福感等が高い。

児童生徒質問「ICT活用で友達と考え共有・比較しやすくなる」と児童生徒質問「自分と違う考えについて考えるのは楽しい」のクロス集計



【分析（○）と今後について（●）】

- 「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」の項目に肯定的回答をした児童生徒ほど、国語科、算数・数学科の正答率が高い。
- 「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」の項目に肯定的回答をした児童生徒ほど、挑戦心・自己有用感・幸福感等が高く、自分で学び方を考え工夫している。
- 課題解決に取り組む活動を行っている学校ほど、考えをまとめ、発表・表現する場面でICTを活用している。
- 「ICT活用で友達と考え共有・比較しやすくなる」の項目に肯定的回答をした児童生徒ほど、挑戦心・自己有用感・幸福感等が高い。
- 主体的・対話的で深い学びの実現が、市として目指している「学び続ける力」の育成に深く関係していることがわかった。児童生徒自身が主体的に取り組めるような課題や学習方法を設定、選択できるような授業改革を推進する。
- ICTの効果的な活用方法については、研修等を実施し、各学校に共有するとともに、今後も継続してICT活用を推進していく。

調査結果分析に基づく町田市教育委員会の取組

- （１） 調査結果を踏まえ、授業改善推進委員会において、「課題の解決に向けて、児童生徒が自ら考え、自ら取り組むことができる授業」を目指し、「自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動」を多く取り入れた授業実践を行い公開するとともに、デジタル版実践事例集や、動画を作成して、各学校で授業改善の参考資料として活用するように周知する。
- （２） ２０２５年度からは全校で授業改革研修を実施するとともに、町田市スタンダード授業改善シートや授業改善推進プラン（中間改善計画）を改訂し、学び続ける力を育む授業の推進を図る。その際、組織的な授業改善やPDCAサイクル化を図るよう教務主任会や研究主任会、若手教員育成研修等で周知していく。
- （３） 各学校において授業改善に取り組めるよう、教員及び児童生徒を対象に実施した市独自のICT活用状況調査の結果を指標として確認してもらうようにする。
- （４） 家庭学習の充実に向けて、「Machida Next Education【家庭学習編】」を改訂するとともに、学習習慣の確立や定着、読書活動の推進やICTを活用した家庭学習における学びを推進する。